

朗<sup>地</sup>読<sup>試</sup>劇<sup>の</sup>試<sup>長</sup>演<sup>崎</sup>会

被<sup>真</sup>爆<sup>反</sup>体<sup>の</sup>験<sup>黒</sup>証<sup>い</sup>言<sup>太</sup>集<sup>際</sup>

ピ<sup>原</sup>ー<sup>爆</sup>ス<sup>シ</sup>ア<sup>悲</sup>ター<sup>し</sup>

2022年  
10月29日(土)  
19:00開演  
鳥飼倶楽部  
1000円

## 内容

1. 被爆体験証言集を朗読劇にすることについて
2. 各お話と上演方法とその狙い
3. 今後の予定や協力をお願い

## 被爆体験証言集を朗読劇上演することについて

### ●被爆体験証言集を上演することについて

被爆体験証言集「つたえてください あしたへ……」は、組合員が被爆者から直接話をうかがって書き留めた聞き書き集です。このとりくみが始まったのは、戦後50年の節目を翌年に控えた1994年。若い世代へ戦争の愚かさ、被爆の悲惨さを語り継ぎたいとの想いでスタートしました。貴重な体験をお話しいただいた証言者のみなさまをはじめ、福岡県原爆被害者団体協議会や県内各地の原爆被害者の会のご協力と、活動に参加した多くの組合員の努力により、毎年発行を続けています。（エフコープwebサイト「次世代に伝えたい平和の大切さ」より）

この朗読劇試演会では、エフコープが発行している被爆体験証言集「つたえてください あしたへ……」の中に収録されている証言を朗読劇にしています。2022年の現在、被爆体験者が高齢になり、聞き書き活動を続けていくことが難しくなっていると想像しています。今は被爆当時10代・20代で経験した人たち、被爆当時子供だった人・胎内被爆者、被爆二世といった、3つの層が入り混じる端境期であると思います。

この状況は、現在にしか存在しない唯一の状況です。この3つの層が重なり合い伝え合うことを通して、戦争・被爆という記憶を、遠く手の届かないものにするのではなく、一つ一つ手渡しするかのよう丁寧なボタンを繋いでいくことを目指します。

### 本試演会で試みたいこと

- 1：朗読劇上演での出演者・来場者、双方の反応
- 2：上演方法とその効果-展望として出演者の一般公募を予定
- 3：お話の数とその選択について

### ●上演形式：朗読劇について

・朗読劇を定義すると「台本の文学性を重んじ、朗読を主とした劇的表出によって観客の想像力を刺激し、文学作品を強調しようとするものである」これではかえってわかりづらい。「文学を目に見えるように、耳に聞こえるように観客に伝えること」という言い方もできる。耳に聞こえるというのは、言語の音声化によって、より豊かに内容を伝えようとするものである。

・彼らは想像で演技の一部を補う。それは人物の性格づけ、動きその他を完全なものにするようではなければならない。語り手が語る作品の記述に刺激されて、観客は心に登場人物の動きを想定したり、同調して自分もその1人になったりする。こうして彼らは二重のヴィジョンを使うことになる。つまり、彼らは前の舞台上の語り手を見るが、それに重ね合わせて、文学という世界の中で相互作用し合っている人物をも心に思い描くのである。（「朗読劇とは何か」より）

朗読劇という言葉は1945年にニューヨークで初めて使われたもので、その時は「オイディプス・レックス」を上演したとのこと。朗読劇は、演者が台本を手に持ち語りかける舞台表現です。通常の演劇よりも書かれているテキストに意識が向き、「演者を見ると同時に物語の登場人物を見る-二重のヴィジョン」を用いることは、被爆体験の証言者の姿・当時の状況をイメージすることに有効だと考えました。

### ●被爆体験証言集の試演会まで向かう間に起きたこと

本日の試演会を迎えるまで、月に数回の読み合わせを行いました。そこには今日の出演者以外の方も参加してくれました。その時の感想が印象に残りました。「知らないことが多い」「小学校の時の平和学習でこういった話をよく聞いていた。繰り返し何度も聞いたので、その反動で『もういい』となってしまう」「数日間重い気持ちになりました」「当時の状況をイメージすることができない。イメージしようとするとならず知らずに頭がブロックしてしまって思い描くことができない」などなど。こういった感想を聞いて、どうい内容で朗読劇の上演をするのがいいのだろうかと考えました。最近では戦争体験を漫才にしている人たちもいるようです。そういうイメージがあったので、証言を朗読の上演にしていくときに漫才・講談・落語などなどの語り芸を多様に織り交ぜた内容にするのはどうだろう。と考えました。それらも過程の中で試みたのですが、まだあまりにもまとまりが持てなかったのでアイデアとして温めています。今回の試演会では、一番最初に自分たちがこの証言集に触れた時の驚きや抵抗感、証言をしてくれた方の気持ちを想像して、その姿、当時の状況を少しでも声にすることで思い描くことができることを目指しました。被爆者の方が書いた絵を見たり、写真を見たりして、イメージを思い描くことができるように努めて見ました。それでも、非常に、大変、難しいです。

### ●被爆体験証言集を声に出すときに気をつけたこと

読み手が文章を読む時の意識を、「当事者（証言者）」「現場にいる人」「証言集を記録として読む人」の3つを織り交ぜていくことにしました。

当事者（証言者）として読むということは、証言者本人を演じるということにもつながるのですが、朗読劇の特徴でもある二つのヴィジョンや証言の言葉に意識がより向くように気をつけました。また、いかにも当事者らしく振る舞うことに対しては慎重でした。それは、「演じることで当事者的体験をすることはできるが、当事者になることはできないのではないか」という、演じることに対する疑いというか考えがあるからです。

### ●証言の選択について

どの証言を読むのがよいか考えました。一番最初に決まったのは「原爆悲し」です。2020年に証言され、最新の証言集に掲載されていたこと、証言の内容が口語的で証言者の姿を感じられ、また広島状況を広く伝えるものであったことなどから読むことを決めました。次に、朗読劇で読むのは1つでもいいのではないかと考えました。1つの証言を伝え、その感想を語り合うことで十分なのではないかと考えました。感想を語り合う方法をワールドカフェ（※1）やプレイバックシアター（※2）などで行うことで、聞き手側の交流を増やすのがいいのではないかと準備していたのですが、違う体験が語られることで聞き手自身の中でイメージを育てることができるのではないかと考え、それぞれ感触の違う3つを選ぶことにしました。選ぶ時には、証言者の客観的言葉が多いものを中心に選びました。理由は朗読劇の実施が、意見・思想を発信するものになることに気をつけたからです。

※1 ワールドカフェ：テーブルごとにテーマを設けて話し合う方法。

※2 プレイバックシアター：体験を語りその場で劇にする即興劇の方法。

## 各お話と上演方法とその狙い

### ①原爆悲し

白島西中町、ここが私の自宅です。白島小学校は、横川駅よりも東側だったと思う。そして、爆心地はここなんです。これ原爆ドーム。 筑紫原爆被爆者の会に、ふれあい通信というのがあります。私はここで戦争と平和という題材で、一〇〇〇人ぐらいの子どもたちに話をしました。鉄が溶ける温度、溶鉱炉から流れてくる真っ赤な鉄の温度は一五〇〇度ですよ。爆心地の直下は五〇〇〇度。五〇〇〇度では被爆した人は灰も骨も何もありません。 私は九十五歳ですよ。生き残っている人間はおりません。そういう、本当に生き残って真実を語る人間は私しかいないから、だからいよいよ最後と思い、聞いていただきたいです。

証言者	小川淳二
当時の年齢	20 歳
被爆地	広島
証言時の年齢	95 歳
聞き取り日	2020 年 12 月 1 日
収録誌	被爆体験証言集「つたえてください あしたへ・・・」26 集

●上演方法：語り＋透明人間的な人形遣い

●その狙い：証言者の姿・表情を想像する

「原爆悲し」は、小川さん自身が体験されたことと、広島当時の状況が俯瞰して語られています。文章は口語的で、語り手の姿が浮かび上がってくるように感じられました。このことから、証言者がどのように語っているかを想像してもらうことを目指しました。演者 2 人が 1 体の人形の左右の手足を操作する人形劇の方法で、顔のない透明人形の動きから、証言者の小川さんの姿や表情・想いを感じていただくことを目指しました。

### ②真夏の黒い太陽

遠雷が轟いてきた。家内がすかさず私の部屋に飛んできて「お父さんゴロゴロがなりだしたよ」とすばやくカーテンを引いてくれた。カーテンは光を通さないように黒地でできている。雷鳴が聞こえてくると必ずやってくれる家内の気配りである。私の体調を気遣っての配慮ありがたい。昼間というのに四角い窓から見える今日の空はどんよりと曇っていた。春雷が起きやすい雲行きであったが、やがて雷鳴は遠のき、閃光もなく一日は終わった。 今日は何事もなくすんだが、病気ではない。閃光を浴びると同時にあの日の黒い太陽が亡霊の幻想を呼び起こし、震えだし動けなくなる。もう半世紀も過ぎたというのに。

証言者	福田耕三
当時の年齢	-歳
被爆地	長崎
証言時の年齢	-歳
聞き取り日	2002 年 12 月 16 日
収録誌	被爆体験証言集「つたえてください あしたへ・・・」9 集

●上演方法：朗読＋場面・効果音等による空間的体験

●その狙い：証言者が体験した場面を想像する

「真夏の黒い太陽」は、福田さんが自身の体験を記録として残すことを決められて書いた文章を、エフコープの被爆体験証言集に掲載したものです。声に出して読むと、当時の出来事を再体験するかのような強い力を感じました。と同時に、当時の体験を言葉では表すことはできるのだろうか。とも思いました。「虹が砕けた」という描写からは、言葉で言い表せないことを、なんとか言葉にあらわそう。という思いを感じました。そのことを踏まえて、体験されたときに感じられた音を想像して、演者が音声にして表現することにしました。そうすることで、聞き手・受け取り手それぞれが場面をイメージすることにつながればと考えました。

### ③地獄の長崎

昭和二十年八月九日、その日の長崎は朝から照り返しが強く、燃えるような夾竹桃のもと、蝉時雨の声を聞きながら、工場に向かっていました。長崎の五島で生まれ育った私は、十五歳の時、長崎の三菱兵器製作所の旋盤工として配属されていたのです。朝礼が終わり、それぞれの持ち場の旋盤に向かって作業を行なっていると、間もなく空襲警報、敵機来襲ということで、作業を放棄して近くの山の中に避難しました。そこには満々と水をたたえた池があり、同僚のS君が「おい白濱、こんなに毎日毎日、空襲では明日の命もわからんぞ。泳ごうや」と言い、わたしらは、ふんどし一本で池の中で戯れました。

証言者	白濱清太郎
当時の年齢	15歳
被爆地	長崎
証言時の年齢	72歳
聞き取り日	2002年12月11日
収録誌	被爆体験証言集「つたえてください あしたへ……」9集

●上演方法：来場者による朗読＋各場面の瞬間を表現する

●その狙い：来場した人全体で一緒に理解しながら進める

目の前で友人がはらわたを出しながら自分を殺してくれと頼む状況。そのすぐそばにいる妹の存在。その後におきる様々な出来事。出演者の1人が「想像することが難しい。朗読劇にこられた人と一緒に理解したい」ということを言われました。語られたお話の中のどの瞬間を表現するかをその場で考えながら、一緒に進むことが良いのではないかと、参加型での体験にしようと考えました。また、来場者が声に出して読むことで「よりイメージすることができる」ということにもつながり、その場では声に出して読まなかった人にも、終演後にエフコープのサイトで読んでもらうことにつながることも願っています。

被爆体験証言集「つたえてください あしたへ……」はエフコープのwebサイト内で見ることができます。

[https://www.fcoop.or.jp/union\\_activities/peace\\_international/experience/](https://www.fcoop.or.jp/union_activities/peace_international/experience/)



## 今後の展望

### ●展望1：一般公募で出演者・スタッフを募集し朗読劇の創作と上演

今回の試演会で実施した3つの方法を基に出演したい人・スタッフで参加したい人を募集してワークショップを行い、朗読劇の上演を目指す。

予定スケジュール（例）	
1月～3月	募集受付
4月	オリエンテーション
5月～8月	ワークショップ（月に3～4回程度）
8月	上演

### ●展望2：3つの世界をつなげる上演とその方法

被爆当時10代・20代で経験した人たち、被爆当時子供だった人・胎内被爆者、被爆二世といった、3つの層が入り混じる端境期の3つの層・3つの世界を繋いでいく。3つの層が重なり合い伝え合うことを通して、戦争という記憶を、遠く手の届かないものにするのではなく、一つ一つ手渡しするかのよう丁寧なバトンを繋いでいくことを目指す。

第一の世界：体験を聞く人たち	
方法	聞き書き体験の報告会を行う
内容	エフコープの聞き書き活動を行なっている人たちが、聞き書き活動をしているときに感じた思いや、聞き書き中のエピソードをプレイバックシアターを活用した方法で報告会を行う。

第二の世界：最新の聞き書き活動	
方法	被爆体験証言集シナリオの朗読劇
内容	被爆体験証言集に収録されているシナリオを使った朗読劇を上演する。出演者はプロの俳優数名と、一般公募の参加者による。公募対象者はエフコープの組合員さんが中心となる。

第三の世界：記録から見出す人の思い	
方法	被爆体験証言集の記録朗読劇
内容	エフコープが1995年より始めた被爆体験証言集の初期の記録を素材にした朗読劇を上演する。記録から何を呼び覚まし、何を人に伝えるかを自分たちで考え・見つけ出す必要があります。

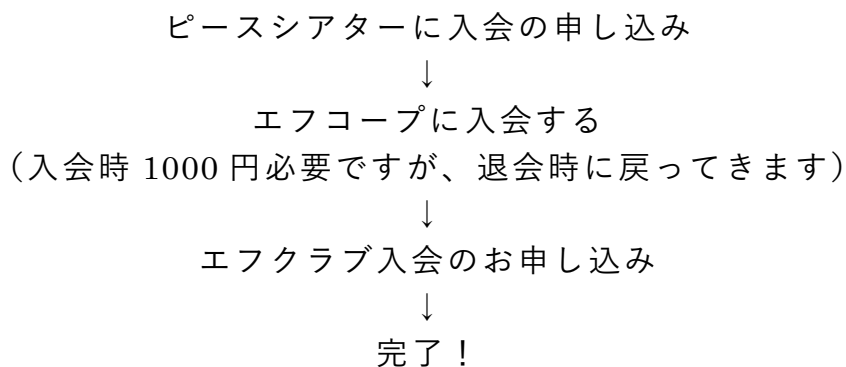
### ●展望3：砂絵と合わせた朗読劇

砂絵を活用した朗読劇の実施。砂絵は光と影を使い人間の手を使って描く表現です。体験証言集で語られる記憶の景色は、語りながら絶えず変化するイメージが共通していると考えています。体験証言集の言葉と砂絵を共に表現することで観客のイメージを刺激し、体験者の方と非体験者、それぞれがイメージを動かすことのできる表現を目指していきます。  
予定アーティスト：田村祐子（サンドパフォーマー）



#### クラブメンバー募集

ピースシアターは、エフコープの中のエフクラブという制度を活用して行なっています。このエフクラブピースシアターのメンバーを募集しています！



「活動には協力したいけど、実際なかなか参加難しいかも」という方も、ご相談ください！

活動内容	・被爆体験証言集の朗読劇上演活動 ・戯曲、絵本等のテキストの本読み会など
お問い合わせ UFO	メール：ufo.mikakunin@gmail.com 電話：080-3965-4225（五味）

ピースシアター被爆体験証言集朗読劇試演会

日程：2022年10月29日（土）19:00開始 | 会場：鳥飼倶楽部 | 参加費：1000円

出演：梅田剛利（劇団翔空間）、加藤久美子、高松美果

企画・構成・演出：五味伸之 | 音楽：ほたか | 人形アドバイス：池浦和彦

証言：原爆悲し（小川淳二）、真夏の黒い太陽（福田耕三）、地獄の長崎（白濱清太郎）

主催：エフコープ エフクラブ ピースシアター、UFO

お問い合わせ UFO	メール：ufo.mikakunin@gmail.com 電話：080-3965-4225（五味）
---------------	---